

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	34	学 校 名	静岡県立静岡高等学校定時制	校 長 名	織田 敦
------	----	-------	---------------	-------	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生徒の実態を踏まえ、一人一人に応じたあたたかみのある教育活動を推進する。	・教員が生徒個々の情報を把握することで、指導の足並みを揃える。 ・生徒との二者面談は100%、保護者との三者面談は90%以上実施する。 ・HPの更新を月1回以上実施する。 ・家庭で保護者と会話ができた生徒が増加する。 ・企業訪問を1回以上行い、情報共有と生徒理解に活用する。 ・社会性、対人関係能力が高まり、基礎学力が向上する。	・日ごろから職員間の生徒に関する情報交換は活発に行われた。 ・生徒との二者面談は実施率100%、三者面談も1学期終了時中心に97%実施した。 ・学校行事を中心に、学校HPを更新し、本校教育活動を周知した。 ・家庭で保護者と会話ができた生徒の割合は約76%であり昨年比25ポイントアップした。 ・親子共通の話題作りを図った(保護者来校時の給食試食と学校の様子をまとめた動画の視聴) ・進路指導の一環として企業訪問を適切に実施した。 ・通級による指導は5人、始業前の学習支援は10人以上、生徒の特性や学力など個に応じた指導を実践した。	A	・2カ月に1回、生徒情報交換会を実施した。共有する情報の取捨選択が難しい。 ・全員対象の三者面談を1学期終了時に実施した。生徒の特性や生い立ち、家庭背景を把握するうえで大変有益であった。 ・移行日の1/10に向けてHPの移行作業を行った。新たなURLを周知するためQRコードの活用を検討している。 ・PTA総会には14名、合同文化祭には若干名の保護者が参加した。体育祭には保護者と卒業生合わせて40名が参加し、学校に対する関心の高さが窺えた。 ・アルバイト就業率が56%に対し、約半数の職場に訪問することができた。生徒理解や進路指導に繋がった。 ・通級担当と関係職員が連携し、生徒が学校に馴染める工夫や支援を行い、良い効果を得ている。 ・学習支援では、基礎基本の定着と授業への意欲的参加を手助けすることを目的としており、良い効果を得ている。
イ	多様な学習活動を設定し、基礎的・基本的な学力の定着と活用できる能力を育成する。	・学ぶことの楽しさを感じ、粘り強く努力する姿勢を身につける。授業がわかると回答する生徒が70%以上になる。 ・漢字テストについて、全員が1回以上合格する。	・授業アンケートで「授業はわかりやすく興味の持てる内容である」という項目に、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は88.7%だった。 ・36%の生徒が1回以上合格することができた。昨年度比34ポイントダウンした。	B	・授業形態、ICT活用や教材・教具の研究に努めて、個々の学びにアジャストした授業を実践したい。 ・目的や目標、実施日を周知して、クラスや学校全体での意識高揚を図りたい。また難易度(問題合格基準)を見直し、生徒の有用

		・年度当初にくらべて、基礎学力が向上したと実感できる生徒が80%以上になる。 ・自らが課題を設定し、情報収集・探究・発表することで、物事に対する視野を広げる。 ・生徒の学習意欲が向上し、主体的に授業に参加している生徒が80%以上になる。 ・授業に興味・関心を持ち取り組んでいる生徒が80%以上になる。	・授業アンケートで「授業を受けることで、自分自身の進歩や成長を実感できている」という項目に、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は、1学期は87.6%であった。 ・総合的な探究の時間において各自のテーマの課題解決や調査を行い、視野を広げた ・授業アンケートで「授業中、クラス全体が積極的に授業に参加している」という項目に、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は91.5%であった。 ・授業アンケートで「授業でわからない事は先生や友人に聞いてわかるように努力している」という項目に、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は78.1%であった。		- 感・達成感の向上に繋がる在り方を模索したい。 ・授業内容についていけない生徒もいるので、より丁寧な対応を心掛けたい。 ・3学期の印高基礎の時間を利用して、「高校生のための学びの基礎診断」の認定ツールを利用した検証を行う。 ・世界を知ろう！をテーマに興味関心に応じて7講座から1つを選択し、見聞を深めた。活動の中で協働する場面も多く、学年を超えた人間関係の構築など副次的な効果もあった。 ・学習の仕掛け→心理的安全性・ICT ・心理的安全性の担保が主体的な取り組みを促進している。Google Classroom やロイロノートを活用すると生徒の反応は良好である。 ・教員の工夫（ICT活用、教材選択、目標設定など）が生徒の授業への興味関心を助長させている。 ・生徒同士の話し合いが活発になるようなツールを模索していきたい。
ウ	授業や学校行事などの教育活動を通して、自己理解を深め、協調性を育む。	・場に応じた適切な言葉遣いができ、コミュニケーションを通して、良好な人間関係を築くことができる。 ・スマホ等の正しい使用法を理解し、主権者としての意識を高める。 ・場に応じた態度やマナーなど協調性を育み、学校生活、社会生活で活用できる。 ・学校行事の意義と自分の役割を認識し、主体的に活動することで、自己肯定感・自己有用感が高まる。	・体育祭や生徒会行事で他学年との交流を図ることで、学年を越えた人間関係を築くことができた。 ・情報モラル講座と主権者教育講座、消費者教育講座を実施したことで、主権者としての意識が高まった。 ・校外行事を通じて、TPOをわきまえた振舞いを身につけた。時間を守ることの重要性も再認識した。 ・それぞれの行事で生徒が役割を果たし、自己肯定感・自己有用感を高めることができた。	A	・TPOに応じた言葉遣いの習得は、協働的な学びの場面においても促進された。ICTがコミュニケーションの糸口となるケースもあった。 ・成人に求められる規範意識と危機回避能力について考える契機となった。また主権者教育講座と公共の授業を往還することで、政治の仕組みについて理解が深まり、実際に投票した生徒もいた。 ・校外行事と学年横断の活動は、社会のルールやマナーを学習する絶好の機会である。 ・学校行事の企画・運営の過程に、全生徒参加型の仕組みが設定されている。これらの行事は大変好評で、その一因として自己有用感を得られることが挙げられる。

		・自己理解を深め、生徒が互いの意見や行動を認め合い、責任をもった行動ができる。	・全生徒を対象に SST 講座を 4 回実施し、自己理解を深めるとともに、他者との関わり方、折り合いの付け方を学んだ。		・事前に相談をした上でテーマを設定したことで、生徒が直面している課題に直結した講座を実施することができている。次年度も今年度並みに実施したい。
エ	社会的自立に向け、望ましい職業観・勤労観を育成し、進路実現を図る。	・年次ごとの段階的なキャリア教育により、職業観・勤労観を養う。 ・自己を振り返り、見通しを立てることで成長を実感し、進路目標が明確になる。 ・進路意識の向上とともに、希望進路の実現率 100% を達成する。 ・進路実現に向けた意識を高め、行動に繋げることのできる生徒数が増加する。 ・ハローワーク等、外部機関との連携を行い、計画的に指導する。 ・アルバイトによる就労率 80% 以上となる。	・進路のしおりを活用してキャリア教育を実施できた。 ・1～3 年生は夏休みの課題として、オープンキャンパスやインターシップ、ボランティアへの参加、職業調べなど自身の進路に向けた活動をした。 ・4 年生の 7 人中 6 人の進路が決定している。 ・進路学習日(企業 上級学校 社会保険労務士)やインターンシップ、ライフプランセミナーにより進路意識が高まった。 ・ジュニアインターンシップ(ハローワーク)、YourLife(進路学習日)、就職ガイダンス(東海道シグマ)などを実施した。 ・アルバイト等の就労率 56% 以上であった。	A	・入学から卒業までを見据えた計画的なキャリア教育を目指し、進路担当を中心に実践し、検証や改善を重ねている。 ・YourLife による 2 回の進路学習日は大変有益であった。進路目標の設定においては、生徒の「やりたい」を大切にしたい。また、オープンキャンパスやインターンシップへの参加は効果的なので推進していきたい。 ・進路課の手厚いサポートがあり、夏休み前から進路実現へ動き出すことができた。 ・静岡の高卒求人倍率 3.34 倍(過去最高)、大学全入時代など少子化に伴う社会の変化に対応した指導をしていきたい。 ・学校(会社)見学や自己 PR 文(履歴書)の作成、模擬面接などを通じて試験対策をすることができた。 ・特性のある生徒については、行政や外部機関と連携し、保護者を含めた支援が必要である。 ・就労を通じて勤労観や社会性を身につけることができた。
オ	生徒の心身の健康や安全に留意した学習環境の充実に努める。	・生徒及び教員の交通事故 0 件を達成する。 ・校内外における地震、火災等の際、避難方法を生徒・職員が完全に理解する。 ・薬物や飲酒、喫煙など身体的影響に関する理解率が向上する。 ・話しやすい、相談しやすい雰囲気とを感じる生徒数が増加する。	・生徒及び教員の交通事故 0 件を達成できた。 ・年間 2 回(4 月と 9 月)に初期避難訓練実施した。9 月には内水氾濫の講義を受け見識を深めた。 ・静岡県警察と薬剤師による薬学講座を 1 学期末に実施した。 ・アンケートで「学校や先生に話しやすい・相談しやすい雰囲気を感じますか?」という質問に、あてはまる・大体あてはま	B	・交通安全教室やグッドマナー講習会を実施し、安全意識が高まった。 ・南海トラフ地震臨時情報や避難所運営、生徒の引渡しなどを想定した訓練も取り入れていきたい。 ・国内において、16 歳からの大麻使用が急増傾向にある。薬物等に依存せず人に依存できる信頼関係の構築も有効な手立てと考える。 ・様々な生い立ちや背景を持つ生徒に対して、受け入れて寄り添う支援に努めてきた教員の取り組みが数字で表れた。

		・いじめや体罰を許さない環境にすることで、いじめの早期発見に努め、いじめによる生徒指導件数0件を達成する。 ・心身の健康を保持させることで欠席、遅刻日数が減少する。 ・発達段階や偏り、成育歴などの多様性に応じた指導・支援の充実により、早期対応・早期解決を図る。	ると答えた生徒は 86.8%であった。 ・いじめの件数は0件であった。上級生になるにつれて心理的安全性が高まっている。 ・全校で1日当たりの欠席は2.3人、遅刻は2.0人である(1-2学期)。 ・フリースクール、SSW、法務支援センター、葵福祉事務所、児童相談所、しずおか共育ネット、医療機関、出身中学校などと連携して充実した支援ができた。		・命や健康の大切さを理解し、利他性、自己肯定感を育んでいきたい。 ・受診勧告が受診に結び付きにくい。 ・リモート授業を実施した。出席状況は良好で、学校が居場所としての機能を果たしていると言える。 ・通級指導を希望する生徒や、必要性を感じる生徒が増えている。 ・多様性に応じた支援には、外部機関との連携が不可欠である。事象に適した機関に繋げる力(機能)が求められる。人脈(連携先)の拡大にも努めたい。
力	「働き方改革」とコンプライアンスの徹底を推進し、働きやすい環境を整える。	・行事の実施方法の変更もしくは行事自体の廃止を検討しつつ、行事の精選を図る。 ・働きやすい、意欲的に働ける環境である。 ・業務に支障がない場合は、積極的に休暇を取得する。また、研修等への参加とコンプライアンスの徹底を図る。	・6月に実施していた体育祭を11月開催とした(熱中症対策)。 ・職員室の座席を正副担任で横並びにすることで、情報交換が容易となった。 ・年休取得率は個人差があるものの、取得に対する同僚の理解は得やすい。また、年度当初に設定した自主研修に参加した。教職員による不祥事は0である。	B	・各行事で生徒・職員アンケートを行い、改善を重ねてより良い行事を目指していく。 ・業務の平準化と職員の強みを活かす人材配置を図る。他学年、分掌内の連携を促進する仕組みづくりを模索したい。 ・職員の人間関係や家庭環境・健康状態等に配慮し、休暇取得の促進や労働時間の管理を行い、誰にとっても働きやすい職場を目指す。